

# 足立区と市川団十郎

所在地：関原 2-22-10 だいしょうじ 大聖寺



市川家の三升紋



八代目市川団十郎  
(三代歌川豊国〔国貞〕画 足立区立郷土博物館所蔵)

は  
ち  
だ  
い  
め  
い  
ち  
か  
わ  
だ  
ん  
じ  
ゅう  
ろ  
う  
ほ  
う  
の  
う  
も  
く  
ぞ  
う  
ち  
ょう  
ち  
ん  
へ  
ん  
が  
く

八代目市川団十郎奉納木造提灯扁額

大聖寺(真言宗)は室町時代に足柄関所(静岡県小山町)の役人だった小宮光徳が夢のお告げによって関原の地に草葺きの小さな堂を建て、不動明王を安置したのがはじまりと伝わり、江戸時代には庶民に篤く信仰されました。市川家は、初代以来、不動尊を本尊とする成田山新勝寺(千葉県成田市)を篤く崇敬しており、成田山新勝寺と同じ不動尊を本尊とする大聖寺にも度々参詣に来たようです。その証拠がこの提灯扁額(建物や鳥居などの高い所に掲げる額)です。

市川家の紋である「三升」と、「八代目」と大きく書かれた文字から、この提灯扁額が八代目(1823～54)の奉納したものであることがわかります。提灯の形をしていますが、実際には扁額です。提灯を吊るすための支持台の裏には、「子孫蕃育祈 市川団十郎」、右側に「嘉永六癸丑六月廿八日 寿海老人白猿拜書」と書いてあります。寿海老人白猿は七代目市川団十郎(1791～1859)のことで、嘉永6年(1853)に文字を七代目が書いたことがわかります。つまり、この提灯扁額は、七代目と八代目が二人で大聖寺に奉納したものなのです。

足立区と市川家のつながりを示す貴重な文化財です。

## 文化財豆知識

### 輝きを取り戻した提灯扁額

提灯扁額は、経年劣化が進んでいましたが、平成31年度に大聖寺が専門業者に依頼し修復がなされ、三升や「八代目」の文字などの金箔がはがれた部分に再び金箔を置いたほか、緩んだ部分を占め直したり、全体の調色や剥落止めなどがなされました。これにより提灯扁額は往時の輝きを取り戻したのです。

修復前の様子

